

## 「第45回 東京モーターショー」への出展

荒川佳則<sup>\*1</sup>

### Exhibition at the 45th Tokyo Motor Show

Yoshinori Arakawa<sup>\*1</sup>

#### 要旨

昨今のモーターショーの競合は、家電見本市のCESやJapan ITS世界会議などであり、単にクルマ中心の技術や製品を陳列してお客様へ訴求活動を行う場からユーザー視点で将来を描き開発した商品がいかにかに新しい価値を示せるかを競う場へと変貌してきている。このような情勢の中2017年第45回東京モーターショーに向け豊田合成がビジョンを描きながら取り組んできた最新の技術事例について報告する。

#### Abstract

In recent years, CES, a consumer electronics and technology trade show, Japan ITS and several other trade shows have become competitors to motor shows. Motor shows have tended not only to be showcases that attract customers with products and technology, but also stages to describe the new future and new values that the developed products and technology will provide for customers. This report introduces the latest technology we have been working on for the 45th Tokyo Motor Show in 2017, based on our vision for the future.

## 1. 出展に際して

豊田合成株式会社は1954年第1回全日本自動車ショー(1964年より東京モーターショーに名称変更)から出展しており、今回で45回目を迎える。出展内容については自動車部品メーカーとして製品中心の展示から、近年では、将来コンセプトを基にコンセプトカーという形態での提案も行うようになった。

今回の第45回東京モーターショーでは「Technology for Goodness」を謳い文句に“ゴム・樹脂の高分子技術とLEDによって『安全で環境にやさしく快適なクルマづくり』に貢献する”とし技術力を通してよりよきクルマづくり、よりよき社会作りに貢献し世界の人々にうれしさを届けることを訴求するために出展を行った。

## 2. 出展の背景

現在クルマを取り巻く環境は劇的な変化を迎えようとしており、環境汚染による地球温暖化や、都市部への人口集中と交通問題、高齢化の進展など様々な問題が社会背景となっている。

今後は「自動運転」「電動化」やシェアカーなどを用いた「新たな社会システム」への流れが急速に進展すると予想され、これらを世の中の動向として捉え将来のライフスタイルを予測することが必要となると思われる。今回我々はこれらの背景をベースにバックキャスト思考で新価値や新体験をいかに技術に落とし込むかという取り組みをしながらクルマが将来進むべきビジョンを議論し企画を進めた。

## 3. 出展内容

前回の第44回東京モーターショーに出展したショーカー“Flesby”は豊田合成としては初めての車両提案で安全技術を車両外板に採用し「エアバックカー」として新発想の提案を行ったが、今回はその延長線上に留まることなく遠い未来に向けた提案として、我々なりの社会背景予測をベースに進めた。完全自動運転車両やシェアカーなどの新社会システムが浸透した世界において人のココロの変化によって変貌する価値観、AIやバイオニクスで機械や道具が新たな進化を起こすことなどを想定し、技術がいかに変貌していく

\*1 デザイン企画部

かについて議論を行った。さらなる豊かさを求める未来では、ヒトとモノとがより密接に関係し合う事が必要になると仮説を立て、そのための技術はいかに変化すべきか、どんなクルマになるべきかを考えた。様々な技術はヒトに近づくため生き物に近くなり「硬いモノ・コトから柔らかいモノ・コト」へ革新する、そして豊田合成の要素技術である LED 照明や e-Rubber などの新技術や素材が AI と組み合わせられることで新たな可能性を生み出し未来の“愛車”の方向性を示唆する新たな提案として“Flesby II”を開発した(図-1)。



図-1 東京モーターショー出展ブース

本モーターショーでは心和らぐ、体も柔らかく、社会も和らぐ「ヤワラカイ」クルマをテーマに超小型モビリティとして新たな価値を提案。そしてこれを具現化する将来技術も同時に開発し会場にて展開を実施した。

少し先の未来では自動運転時に快適に過ごせるインテリア製品を提案した。さらに最新のレクサス LS に搭載されたステアリングを中心に、自動運転に関連する製品などを紹介し来場いただいたお客様に大きな関心をいただいた。

#### 4. おわりに

今回の東京モーターショー出展において、技術視点では、今後大きく様変わりする情勢のなか未来の豊かな生活を創造するために「ヒトを見守り、寄り添い、助ける技術・製品を提供する」という考えのもと開発を行ったが、部品サプライヤー自らが将来を描くことで将来市場に向けた重要な開発テーマを見極め、さらに慣例にとられない発想でイノベーションを誘発する事の重要性を強く感じた。

以降ページでは出展技術の開発事例について報告する。

著 者



荒川佳則